

令和3年度 向粟崎小学校評価報告書 (年度末)

(自校の実態に応じた学校評価書)

①よくあてはまる ②あてはまる
③あまりあてはまらない ④まったくあてはまらない

重点目標	主な具体的取組	現状	評価の観点	評価方法	実施状況の達成度判断基準	評価	①	○成果 ◆課題 ・改善策
学力の向上	基礎学力の確実な定着を図る取組の充実	学年会などで「話す・聞く・書く」の指導の手立てについて共通理解・共通実践が十分でない	学級の実態に合わせた学習規律の定着のための取組を実施した〔努力指標〕	学級・教科経営案	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	A 93.8%	37.5%	○学習規律の定着の取組が、前回同様に90%以上の肯定的評価が表れている。 ◆教職員の①(よく当てはまる)と答えた割合は前回より高くなったが、児童の実態としては規律が守られていない部分がある。 ・新学年に向けて、学習規律の徹底を図っていく。
			友達や先生の話に反応しながら最後までしっかりと聞いている。〔成果指標〕	児童アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	A 95.0%	47.7%	
	学び合い、高まりの実感できる授業づくり	対話的学びが「意見の出し合い」で終わることがないよう、自己の変容に気づかせる授業づくりが求められる。	ねらいに迫るための深めの発問を実施した。〔努力指標〕	教職員アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	B 82.4%	29.4%	○教師のねらいに迫るための深めの発問を実施した割合が高くなり、深く考えることができた実感している児童の割合も高くなった。
			話し合いにより、多面的に考えたり、より深く考えたりすることができた。〔成果指標〕	児童アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	B 87.2%	42.4%	
学力向上ロードマップの活用	学年・学級間格差が生じないよう、組織的なPDCAサイクルを進めていく必要がある。	学力向上ロードマップのPDCAサイクルをもとに、組織的に学力向上に取り組んでいる。〔努力指標〕	学級・教科経営案	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	B 87.5%	43.8%	○学期ごとに評価と改善の機会を設定することで、学力向上ロードマップの取り組みが意識された。	
豊かな心の育成	児童が互いを認め合う温かい学級づくり	お互いのよさやがんばりを認め合う雰囲気はあるが、児童の自己有用感の高まりまでにはつながっていない。	児童が互いを認め合える具体的な取組をしている。〔努力目標〕	学級・教科経営案	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	B 87.5%	25.0%	○家庭で行う「心のアンケート」の取り組みによって、保護者にも児童の良さをやがんばりを認める良い機会になった。 ◆児童同士で認め合いを実感している割合が少し減少した。 ・行事だけでなく、学級の中で認め合う日常的な取組を進めていく。
			「心のアンケート」をもとに、子どもと自分や友達のよさや頑張りについて話し合う時間をもった。〔成果指標〕	保護者アンケート	A:①+②が80%以上 B:①+②が65%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	B 79.5%	20.0%	
			友達のよいところや頑張りを実感している。〔成果指標〕	児童アンケート	A:①+②が80%以上 B:①+②が65%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	A 80.5%	40.1%	
			友達から認められている。〔成果指標〕	児童アンケート	A:①+②が80%以上 B:①+②が65%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	B 77.8%	35.0%	
場をとらえた「あいさつ」指導の実施	あいさつには個人差が大きく、来校者や地域の方へのあいさつはうまくできない子どもも多い。	友達や先生、地域の方へあいさつが定着するように指導した。〔努力指標〕	学級・教科経営案	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	A 93.8%	37.5%	○あいさつが広がってきている。あいさつする意識が高まってきた。 ◆あいさつを活性化させる取組を広げていく必要がある。 ・委員会活動等の児童の主体的な取組をもっと広げると良い。	
		子どもは家庭や地域で進んであいさつをしている。〔成果指標〕	保護者アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	B 89.6%	27.9%		
		先生、友達、地域の方へ自分から進んであいさつができる。〔成果指標〕	児童アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	B 89.5%	59.3%		
健康と安全	「早寝・早起き・朝ごはん」の育成を通じた基本的な生活習慣の確立	家庭への理解を図りながら、早寝、早起きなどの基本的な生活習慣の定着により、朝ごはんをしっかりと食べることが出来る児童を、より一層増やしていく必要がある。	児童が健康(生活プランニング)や安全に気をつけて生活するための指導をした。〔努力指標〕	教職員アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	A 93.8%	56.0%	○生活プランニングの強化週間を設けることで、意識して働きかけることができた。 ◆強化週間以外ではあまり意識することができなかった。 ・健康観察の時に生活リをズムチェックする期間を設けて、児童の意識を高める働きかけをする。
		子どもは朝ごはんをしっかりと食べて登校している。〔成果指標〕	保護者アンケート	A:①+②が95%以上 B:①+②が85%以上 C:①+②が75%以上 D:①+②が75%未満	A 97.1%	72.7%		
		朝ごはんをしっかりと食べて登校している。〔成果指標〕	児童アンケート	A:①+②が95%以上 B:①+②が85%以上 C:①+②が75%以上 D:①+②が75%未満	B 94.6%	84.5%		
連携・協働	地域人材の活用、地域交流の活性化による教育活動の充実と地域貢献	開かれた教育課程の実現のために、より一層地域人材の活用・地域交流を活発に行っていく必要がある。	地域人材を活用した授業を行った。〔成果指標〕 ①:3回以上 ②:2回 ③:1回 ④:0回	教職員アンケート	A:①+②が80%以上 B:①+②が65%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	D 20.0%	0.0%	◆コロナ感染防止対策を取りながら実施できたものはあったが、残念ながら中止した取組が多かった。
働き方改革	業務の適正化を図るとともに、「ノー残業デー」の具現化を図る	月によっては超過勤務時間が80時間を越える職員もいる。	ノー残業デーには、特別な場合を除き、6時を目処に業務を終了した。〔成果指標〕 ①毎週 ②月2回程度 ③月1回程度 ④できなかった	勤務時間記録	A:①+②が80%以上 B:①+②が65%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	C 52.6%	36.8%	○退庁時刻を意識して業務を進める職員が増えてきた。 ・計画的に業務を進められるように声かけを継続していく。
学校評議員による意見			先生方が子どもたちの力を引き出している。ゲストティーチャーとして授業に参加したい。地域の者として、子どもたちの「身近な大人」になりたいが、声をかけても返ってこない。目を見てあいさつできる子どもたちもいるが、もっとあいさつをできる子どもたちにしてほしい。礼儀正しいがおとなしいので、自分の意見をはっきり発言できる子どもにしてほしい。					